

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 10月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600468
法人名	社会福祉法人 新生会
事業所名	グループホーム 木もれびの家
所在地 (電話番号)	岐阜県揖斐郡池田町本郷1572番地の2 (電 話) 0585-44-0533
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年11月6日

【情報提供票より】(19年 10月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 11月 18日
ユニット数	1 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	9 人
常勤 4人, 非常勤 11人, 常勤換算 7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋 造り
	1 階建て, 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000~105,000 円	その他の経費(月額)	約19,000 円	
敷 金	有() 円	無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 450,000 円	有りの場合 償却の有無	有() 無()	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2			
年齢	平均 85.6 歳	最低 75 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新生病院, 今村医院, 香田歯科医院,
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

池田町の住宅地の中に位置し、利用者は図書館や公民館を利用しながら地域の方とのふれあいの中で穏やかに生活を継続されている。地域の行事にも積極的に参加されており訪れる方も多い。200坪の広い庭と大きな樺の木には小鳥の巣箱もあり四季折々の季節感を感じることができる。民家を改装した住まいで家庭的な雰囲気であり、9月に増改築工事も終わり居室やトイレも増えゆとりのある空間でゆったりとした生活をおくられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善の目標となっていたハード面でのトイレの数と生活空間の広がりについては今年増改築することで改善されている。また増改築に関しての意見を自己評価及び外部評価をもとに職員が管理者等と共に考え改築案に意見を反映している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者だけが自己評価するのではなく職員一人ひとりが自己評価しておりそれが日々の業務につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、委員の方のいろんな立場からたくさんの意見がだされている。行事についてや家族からの意見についてなどの検討がなされ、その意見をホームに持ち帰り行事計画やケアプランに反映している。また5月には運営推進委員の方が利用者との交流会を持つことで更に理解が深まった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、契約時には相談窓口、第三者評価機関の利用方法の説明を行い気軽に相談してもらえるように伝えており、苦情箱も設置されている。また面会時や行事の際にも意見を話してもらえるような働きかけをしている。運営協議会で意見をとりいれ検討がなされており日々の生活に反映されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や催し物などの行事に積極的に参加し、来客者も積極的に迎え入れるなど、様々な方と交流を楽しんでおり地域の一員として生活を継続している。9月には地域の方や家族を交え庭でティーパーティーも行われた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人運営理念を基に事業所独自の理念「和顔」を並べて居間の見やすい位置に掲げ、利用者主体の生活の実現とサービスの質の向上に取り組んでいる。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が研修で体験実習を交えながら理念を学びケアの中で実践している。目標や事業計画も理念と連動させて取り組んでおりその活動が出来ているかの継続評価も行っている。		
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や催し物などの行事に積極的に参加し、来客者も積極的に迎え入れるなど、様々な方と交流を楽しんでおり地域の一員として生活を継続している。9月には地域の方や家族を交え庭でティーパーティーも行われた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回までの評価の改善の対象となっていたハード面でのトイレの数と生活空間の広がりについては今年増改築することで改善されている。また増改築に関しての意見を自己評価及び外部評価をもとに職員が管理者等と共に考え改築案に意見を反映している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 行政、区長、家族代表、外部評価委員とセンター職員をメンバーとして開催して互いに意見交換をすることでサービスの向上に努めている。5月には利用者、職員、運営推進委員の交流会を実施し相互の理解、交流を深めることが出来た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護の拠点である地域包括支援センターと連携をとり情報の共有や発信、最新の情報を取り入れて勉強会等のサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際に家族に写真等を見せながら報告をし、行事や交流会にも参加しやすいように配慮されている。健康状態の変化への対応は随時行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、契約時には相談窓口、第三者評価機関の利用方法の説明を行い気軽に相談してもらえるように伝えており、苦情箱も設置されている。また面会時や行事の際にも意見を話してもらえるような働きかけをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の精神的ダメージを考慮し、人事異動の際には一度にかわるのではなく3ヶ月程時間をかけるなど利用者へのダメージを少なくするように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が企画する各層別研修や外部研修があり、研修報告を作成し発表する場があり職員で共有しケアにかかっている。研修先も個人の希望を取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加、他事業所との交流の機会となっている。また2ヶ月に一度開催している法人内のグループホームの勉強会を通して意見交換・情報交換することで実践へとつながっている、		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境の変化による不安や混乱を最小限にするためにケアマネジャーや家族と連携をとり、自宅への訪問やショートステイ・体験利用などスタッフやホームに慣れることからサービスの利用を行っている。また入居後も家族と一緒に買い物へ出かけるなど混乱なく馴染めるように個々に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃の生活の中で利用者の得意な料理の作り方や日常生活の知恵などを教えてもらうなど、会話の中から自然と支えあう姿が感じられる。丁寧な言葉使いで穏やかに接している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のコミュニケーション能力を把握し利用者に対しており利用者の思いの理解に努めて利用者の自発的な言動や笑顔を引き出している。家族との面談時に本人の様子を伝えながら意向を確認しケアに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の得意部分を引き出すようなアセスメントによる情報とニーズの把握、本人・家族の意向を確認しながら介護職員・必要な関係者・ケアマネジャーによる話し合いにより介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの定期的見直しがされている。担当職員の日々の記録からのモニタリング、月1回の部署会議により検討される状態変化が生じた場合は随時計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が大きく年間予定にレクリエーション・趣味活動等が組まれており、利用者が希望する活動に参加できる。又家族・親族の協力を得て同系列の特養入居者で同じ出身地(春日村)の方と共にふるさと訪問する。地域の方との交流会も計画し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時 本人・家族の希望するかかりつけ医を確認してもらっている。併設協力病院での診察や月2回の精神科受診も可能である。地域の歯科医・皮膚科との連携も図り、訪問看護の利用、往診も希望により可能である。通院は家族が対応することとなり情報の共有がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に協力病院を明記、訪問看護事業所と契約、重度化対応指針を家族へ説明、同意を得ている。状態に合わせて本人・家族の思いを確認しながら医療スタッフ・職員等で話し合い支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他人の痛みを自分のこととして感じる感性を基に、利用者個人を尊重する言葉かけ、アセスメントによる生活歴等による思いを大切に、出来ないことをさりげなくサポートし、よい面を引き出す支援がされている。個人情報には同意を得るなどの配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、利用者個々のペースを把握、せかさず・自己決定・生活習慣を大切に柔軟な支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に買い物に出かけ、旬の食材・畑でとれた野菜を使用し、嗜好を考慮した献立、調理、盛りつけ、配膳、片づけなどできる範囲の役割を担い一緒におこなっている。食事は職員も一緒にとり楽しくお話をしながら見守り、さりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調確認をおこない、一名ずつの入浴・時間・湯温等の配慮がされ、入浴剤など楽しめる工夫がなされ、羞恥心に対するさりげない支援、又入浴の拒否に対しては利用者の部屋を温めておくなどの対応を部署会議で議案として話し合っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を理解して得意分野で利用者が負担無く継続できる畑仕事・家事・趣味ごと・お花作りなど役割を持っていただけるよう支援をおこない、感謝の言葉かけをしている。潤いと張りのある暮らしとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気・気候・体調を見ながら声かけがされている。買い物、同系列施設におけるレクリエーション、趣味活動参加による外出、喫茶店・スーパーなど、戸外に出かける支援がなされている		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけて無い。帰れなくなる可能性のある利用者が出かけるとき、止めるのではなく後ろから一緒について行く、安全に配慮する対応がされている。近隣・地域・母体施設等との連携がとれており家族にも説明をおこなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアル作成、年3回の消防訓練を母体施設・地域住民の協力によりおこない、火災・地震等を想定避難訓練の実施。月1回の防災備品の確認、非常用食料・備品等は本館にて管理されており、定期的に法人全体の緊急連絡網の訓練見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は毎日パソコン入力により管理、職員が共有して、栄養士のアドバイスも受けている。食べ方のわからない利用者にはさりげない声かけ介助がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂が広い部屋であり入居者全員がそれぞれ腰掛けていてもくつろげる状態である。大きいガラス窓から日差しが一杯入り広い庭には大きな樺の木に巣箱が取り付けられ、四季折々の草花がみられる景色が目に入ってくる静かな環境で台所は誰でも手伝いやすい家庭的な空間となっている。増築により居間・トイレも加わりゆとりある生活となった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれ自分の思いが感じられる居室となっている。馴染みの家具や小物、写真。自分の作品等を飾るなどなかには仏壇を持ち込まれて毎日お仏飯を供えておられる方が数名みえた。		